

## 多摩キャンパスで歴史を学ぶ 都心キャンパスで今を知る

多摩キャンパスの法学部（現在は茗荷谷キャンパスに移転）、経済学部、商学部があった5・6・7号館の裏手に、昨年「法と正義の資料館」、「大学史資料館」が開設されました。58会の2024年度総会は多摩キャンパスで開催し、会議の後、2つの資料館の見学を行いました。

中央大学は法学部の茗荷谷移転で、後楽園、市ヶ谷田町、駿河台、小石川を合わせた都心キャンパスと多摩キャンパスとの2大拠点体制となっています。

今号では、2つの資料館と都心キャンパスについてご案内します。



資料館見学会2024年8月3日



資料館がある「炎の塔」

「炎の塔」2階に「法と正義の資料館」と「大学史資料館」、1階は公認会計士試験を支援する中央大学経理研究所の事務室があります。

「炎の塔」はもともと、司法試験等の国家試験受験に取り組む受験生や通信教育で学ぶ学生に特別な勉強環境を提供する施設として建設されました。創立125周年記念事業のキャンパス整備の一環で、2002（平成14）年7月15日竣工、建築面積2,163.34㎡、延床面積5,510㎡、鉄筋コンクリート造り地上3階・地下1階の建物。「不動の決意の下、炎のように燃える情熱を込めてあたるように」と「炎の塔」と命名されたとのことです。3階正面には旧駿河台校舎図書館のステンドグラスがはめ込まれています。

法学部の茗荷谷移転により司法試験を目指す学研連（中央大学学術研究団体連合会。法曹を志して司法試験および法科大学院を受験する学生のための受験団体で、玉成会、真法会など6つの団体の連合会）などの研究室が移転したことから、改装され資料館が開設されました。資料館では、2つの常設展示室、2つの企画展示室、合計4つの展示室で展示を見学できます。



# 歴史を知りこれからにつなげる 多摩キャンパスの2つの資料館

写真は学員時報  
526号から転載

## 「医学者証言を覆せ」 弁護士松波淳一の闘い

「法と正義の資料館」は、基本的人権の擁護や正義の実現のために歴史上重要な役割を果たした法曹その他の偉人の業績を広く顕彰することにより、教育にも資することを目的としています。

法と正義、人権の理念について歴史的・理論的に検討する「常設展」を設置。正義の実現、人権の保護のために行動した人々についても「企画展」を通じて焦点をあてることにしています。

第1回企画展示「医学者証言を覆せ 弁護士 松波淳一の闘い」は、2024年4月1日から2025年3月31日まで開催されました。松波淳一弁護士は、富山県氷見市に生まれ、郵便局で働きながら中央大学法学部夜間部に学び、司法試験に合格した努力の人。公害裁判では、「政・財・官・学が一体となって加害者に手を貸してきている」状況に対し、医学的問題を徹底的に研究し、新たに得た医学知識で専門家を相手に堂々とした反対尋問を展開しました。

本展では、松波淳一氏が、弁護士になるまでの「立志編」、公害裁判に立ち



法と正義、人権の理念について先人たちがいかに行動したか、歴史的、理論的な展示

ジェンダー平等に関する資料

公害訴訟にまつわる写真展示

葛蒲逸郎弁護士と当時の法服

向かった「弁護士奮闘編」、後進へ知識・経験を伝える「執筆編」の3つの

テーマを設け、関係資料から彼の活躍を振り返る構成になっていました。

## 資料館の企画展をインターネットで見学できる

第1回企画展示「医学者証言を覆せ 弁護士 松波淳一の闘い」は、中央大学「炎の塔」2階の「法と正義の資料館」で、2024年4月1日から2025年3月31日まで開催されました。「なんだ、終わっちゃったのか」という言う皆さん、大丈夫。現在、インターネットで公開されています。「都内在住でも多摩キャンパスは遠い」「モノレール駅から7号館の裏まで行くのはシンドイ」という方も、ネットでご見学を。資料館のインターネット展示はそんな学員のためだけでなく、中央大学の歴史やその出身者の事績を広く社会に喧伝するため、今後も内容の充実が求められます。



▲ 詳しくはこちらから

「法と正義の資料館 (The Museum of Law and Justice)」と「大学史資料館 (The Museum of Chuo University History)」は令和6(2024)年4月1日に同時オープンしました。いずれも、法と正義や中央大学の歴史を知ること、これからの社会や大学のあるべき姿を求めようという目的があります。

写真は学員時報  
526号から転載

## 中大とスポーツ — 過去・現在・未来 —

「大学史資料館」は1885年創立の英吉利法律学校に始まる中央大学(1905年に改称)の歴史や関係者の事績を通じて中央大学のアイデンティティを明らかにするための資料館です。

中央大学の歴史は1905年の『二十年史』以来、節目ごとに編纂物が刊行されてきました。1980年には百年史の編纂のため、大学史編纂課が設置され(のちに大学史資料課)、同課を中心に資料の収集・保存が行われてきましたが、そうした資料をまとめた形で公開できる施設はありませんでした。本資料館の開設により、それらを目にすることができるようになりました。また、資料館は、大学の歴史や関係者の事績等についての調査をするだけでなく、その成果を在学生の教育に生かし、さらに広く社会に発信するための施設としても位置付けられています。

「常設展」では、創立以来の本学のあゆみを知ることができます。「企画展」では大学の歴史の特徴的な側面を



取り上げています。大学史資料館第1回企画展は「中大とスポーツ—過去・現在・未来—」と言うテーマで、2024年10月14日から2025年4月19日まで開催され、第1部で中央大学が輩出したオリンピック・パラリンピアン活躍を紹介し、選手が獲得したメダルや使用された道具などを展示。第2部は、箱根駅伝における陸上競技部の活躍を中心に、中大スポーツの軌跡が紹介されています。

多摩キャンパス「炎の塔」2階の両資料館はの開館時間は10:00~17:00。入館は16:30まで。日曜・祝日休館です。



# 「学生の頃はなかった」施設を見学

## 白門58会2024年度総会

白門58会幹事長 柳 幸季 やなぎ・こずえ

8月3日、猛暑の東京でも特に気温の高い八王子、中央大学多摩キャンパスで2024年度総会・見学会、高幡不動で懇親会を開催しました。出席予定者12名。猛暑に耐えられず1人2人は棄権してしまうのではと思っていましたが、皆さん参加してくださいました。全員、汗だくでしたが。

### 学生の頃なかったモノレールと校舎

我々が学生の頃はなかった多摩モノレールの「中央大学・明星大学」駅で下車、我々が学生の頃はなかった施設「グローバル館」と「FOREST GATEWAY CHUO」の間を通り、これまた我々が学生の頃はなかった「Cスクウェア」という建物の「リーフカフェ」に集合。夏休み中でカフェの営業はないものの、開いてはいるとのことだったのでここに集合としたのですが、この日はオープンキャンパス開催日（知らなかった）！オープンキャンパス用の装飾が施されているカフェの隅で「我々、受験生の親には見えないよね。ちょっと歳食い過ぎ」など言いながら「順番違うけど総会やっちゃう？」となり、サッと総会を済ませました。事務局長の議案説明に全員“異議なし”で総会終了。

### 2つの資料館を1時間で見学

総会終了後、「法と正義の資料館・大学史資料館」見学。総会初参加の中島康予元法学部長（58会）の先導でペDESTリアンデッキ下を通して懐かしの生協購買部を素見し、「炎の塔」（これも我々が学生の頃はなかった）へ。炎の塔は、法律家をを目指す学生のために建てられた施設。法学部が茗荷谷に移転したので自習スペースに空きができ、そ



こに設けられた2つの資料館が「法と正義の資料館」「大学史資料館」。炎の塔入口正面の階段を上った先、廊下を挟んだ左側が法と正義の資料館、右側が大学史資料館。

「法と正義の資料館」では、イタイタイ病訴訟を闘った松波淳一弁護士の特展開催中。大学史資料館は駿河台時代の教室の一部が移設され、多摩移転直前まで使われていた机や椅子、大時計などが展示されています。机と椅子、全部木製で角は丸まり細かい傷が幾つも…「いつの時代の教室？昭和30年代？」と思っちゃいました。

実は私は2度目で、1度目は資料を読む時間が足りなかったので、2時間くらいは見学時間をとったほうがいいかと懇親会を17:30からとしたのですが、1時間足らずで見終わり急遽17:00からに変更。また中島教授の後について多摩モノレールの駅に向かう。途中、知らなかった裏の通路を教えてもらいフォレストゲートウェイをちらりと見学。3階ホールの色とりどりの座席に座ったり、オープンキャンパス用に並べられたパンフレットをパラパラとめくったり、「教室というわけでもなさそうだし、何のための施設？」「今の

学生はこういう施設がないと志望しないのかなあ？」と隔世の感を抱いたりしながら、再び外へ。少し涼しい裏の通路を歩いて「中央大学・明星大学」駅へ。

### ビールやハイボールで乾杯

乗車して10分程で高幡不動駅に。ここで見学会まで参加の一人とお別れし、駅の目の前のミライザカへは16:50着でした。まだ居酒屋が混み合う時間でもなかったので、問題なく入店。飲み放題にしますか？と聞かれましたが、飲み放題にすると2時間で追い出されるし、皆60代半ばなんだからそんなには飲まないだろうと、断りました。15分程経ったところで懇親会のみ出席の一人が加わりました。

懇親会、なかなか賑やかでした。暑かったのでビールやハイボールで乾杯、の後もビールやハイボールを注文。クールダウンしたあたりでワイン。カップワイン、でした。テーブルに来たのを見るとワンカップの日本酒のようでした（笑）。

酔っ払う前に近況報告。元を含めてジャーナリストが3人いたので取材の裏話など聞いて面白かったです。皆さん、一旦、定年退職されても再雇用、再就職、または新分野で活躍されていて、バリバリの現役でした！この年齢なので多少身体の不調はあつたりしますが、何とか健康を保って活動的に過ごされているようで、安堵しました。飲めて食べられて、58会面々、健啖でちょっとビックリでした。

いっぱい飲んで、食べて、お喋りして、楽しいひと時でした。来年は今回参加できなかった皆様も、何卒ご参加よろしくお願ひいたします。次回は「都心キャンパス巡り」を企画中です。

# もう「山の中の大学」とは言わせない

## 中央大学都心キャンパスガイド

法学部 5,000 人超の学生が茗荷谷に移り、後楽園の理工学部、市ヶ谷田町の国際情報学部とそれぞれの大学院、ロースクールやビジネススクールの学生を合わせると、多摩と都心の学生数はほぼ半々になるそうです。2025 年度の 58 会総会は「都心キャンパス巡り」を計画中ですが、その前に調べた「中央大学都心キャンパスガイド」をお届けします。



### 後楽園も理工も随分変わった

## 後楽園キャンパス

理工学部の諸君は「我々はもともと都心の学生」と言うでしょう。後楽園キャンパスは、当初、1951（昭和26）年に運動施設の整備を目的として政府から払い下げを受け、テニスコート、運動場、体育館などを整備し、正課体育での利用と学友会各部の練習場や合宿所として活用していました。工学部が理工学部へ改称された翌年の1963（昭和38）年から同学部の拠点となり、1980（昭和55）年には中央大学高等学校が駿河台から移転しました。

理工学部は1949（昭和24）年に、戦時中に設立された中央工業専門学校を母体に工学部として当時の駿河台校舎で発足しました。その後、水道橋駅近くに移転し、後楽園移転時はしばらく文学部と同居していた時期もあります。

1963年に建設された旧1・2号館のうち、2号館は既に建替えられており、今年1月には新1号館が竣工し、旧1号館の取り壊しが始まります。新1号館は、容積率その他の制約から高層化されず、地上5階、地下1階、延床面積9,596.64㎡。建物は実験や研究に柔軟に対応できるよう設計され、外観は機動性と周辺との調和を考慮。内部は吹き抜けの構造。東京ドーム側にガラス張り展望ラウンジも設けられ、分野を超えた学際的領域の交流拠点としての利用も期待されています。

なお現在、理工学部には数学科、物理学科、都市環境学科、精密機械工学科、電気電子情報通信工学科、応用化学科、ビジネスデータサイエンス学科、情報工学科、生命科学

科、人間総合理工学科の10の学科が存在しています。これまで「土木工学科→都市環境学科」など名称変更もありましたが、来年4月には、新たに「基幹理工学部」「社会理工学部」「先進理工学部」の3学部へと再編されることになっています。



取り壊しが始まる旧1号館



1月に竣工した新1号館



2号館



### 後楽園キャンパスへのアクセス

東京都文京区春日1-13-27

東京メトロ丸ノ内線・南北線「後楽園駅」から徒歩約5分／都営三田線・大江戸線「春日駅」から徒歩約6分／JR中央・総武線「水道橋駅」から徒歩約12分、「飯田橋駅」から徒歩約17分

## 市ヶ谷駅からよく見える中央大学

## 市ヶ谷田町キャンパス

国際情報学部、国際情報研究科がある市ヶ谷田町キャンパスは、都市部に位置する15階建てのビル。JR「市ヶ谷」駅に近い外堀通り沿いに建ち、ホームからもよく見えるこの建物は「中央大学ミドルブリッジ」と命名されています。元は「アルバイトニュース」の学生援護会の本社ビルで、鉄骨・鉄筋コンクリート造り陸屋根、地下1階・地上15階建てで、建築面積は約1,132㎡、延床面積は約7,818㎡、購入から3ヵ月余の工期で改修を行い、開校式は2010（平成22）年5月15日に挙行されました。

当初は主としてアカウンティングスクール（国際会計研究科）、法務研修施設、大学院公共政策研究科に加え、国際交流を視野に入れたコミュニケーションセンター機能を収容していましたが、2019（平成31）年に国際情報学部（国情）が設立されると、その拠点となりました。ちなみに多摩キャンパスには同年、国際経営学部（国経）が設立されています。

また、かつて中央大学には別の「市ヶ谷キャンパス」も存在しました。市ヶ谷の防衛庁に隣接するアジア経済研究所の旧庁舎を1999（平成11）年に購入。翌年4月から市ヶ谷キャンパスとして法科大学院の授業を開始し、2023（令和5）年に駿河台新キャンパスへの移転まで使用されました。



市ヶ谷田町キャンパス

市ヶ谷田町  
キャンパスへの  
アクセス

東京都新宿区  
市ヶ谷田町1-18

東京メトロ有楽町線・南北線「市ヶ谷駅（6番出口）」正面／JR中央・総武線「市ヶ谷駅」から徒歩約5分／都営地下鉄新宿線「市ヶ谷駅（1番出口）」から徒歩約5分／都営地下鉄大江戸線「牛込柳町駅（南東口）」から徒歩約10分

## 英吉利法律学校の校舎がモチーフ

## 茗荷谷キャンパス

2023（令和5）年に開校した茗荷谷キャンパスは、周囲にお茶の水女子大、跡見学園女子大、拓殖大学などがある文京区北部の学生街にあります。法学部、大学院法学研究科の拠点で、建物外観は、中央大学の前身である英吉利法律学校の赤レンガ造り校舎をモチーフとし、低層階は旧駿河台校舎と同じ尖頭アーチを取り入れたデザインとなっています。図書館や学生食堂は、創立者が学んだイギリスのミドル・テンプルをモチーフとしたインテリアを採用しているとのこと。

このキャンパスは元は都バスの車庫だった場所で、現在も所有地。そのため大学施設のほか、文京区の地域活動センターや保育所などが併設され、地域の人々も利用しています。なので1階は一般市民の姿も多数。入口横はスタバ。地下1階の食堂はスエヒロ（銀座スエヒロカフェテリアサービス）が運営。電子マネーのみの対応。地下2階にはトレーニングルームもあります。



茗荷谷キャンパス

茗荷谷キャンパスへの  
アクセス

東京都文京区大塚  
1-4-1

東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷駅」から徒歩約1分



## 19階のカフェテリアは眺望抜群

## 駿河台キャンパス

旧・駿河台記念館を建て替えて2023（令和5）年に完成した地上19階の駿河台キャンパスには、専門職大学院法務研究科（ロースクール）、戦略経営研究科（ビジネススクール）、学生会（同窓会）本部などがあります。このキャンパスは、学生、卒業生および教職員が親しみ集える施設という位置付けです。外観は「かつての駿河台校舎3号館をイメージした縦基調で、これからの中央大学が大きく羽ばたいていくような軽やかで上昇感のあるファサード」とのこと。5階には模擬法廷もあります。ここでは、裁判員裁判に対応した法廷を再現し、元裁判官、派遣検察官、弁護士など実務家教員と法科大学院学生による模擬裁判が行われています。19階のカフェテリアは眺望抜群で、ランチタイムは近隣の女性会社員らでいっぱい

駿河台キャンパス



## 駿河台キャンパスへのアクセス

東京都千代田区神田駿河台3-11-5

JR中央・総武線「御茶ノ水駅」から徒歩約3分／東京メトロ丸ノ内線「御茶ノ水駅」から徒歩約6分／「淡路町駅」（B3b出口）から徒歩約4分／東京メトロ千代田線「新御茶ノ水駅」（B1、B3b出口）から徒歩約3分／都営地下鉄新宿線「小川町駅」（B3b出口）から徒歩約4分

## 都心の「体育施設」

## 小石川キャンパス

後楽園キャンパスの裏手、小石川税務署の隣で牛天神下交差点の旧JT跡地に新設された小石川キャンパスは、法学部、国際情報学部の体育実技の授業や、サークル等に利用されています。多摩キャンパスの学友会所属部会の一部も、こちらにサークル室を持っています。後楽園キャンパスから徒歩7分程度、茗荷谷キャンパスからは徒歩20分程度。法学部から歩いて移動するのは大変ですが、地下鉄を使って10分程度の移動距離です。



小石川キャンパス（大学ホームページより）

## 小石川キャンパスへのアクセス

東京都文京区春日1-4-11

東京メトロ丸ノ内線・南北線「後楽園駅」から徒歩約5分／都営三田線・大江戸線「春日駅」から徒歩約6分／JR中央・総武線「水道橋駅」から徒歩約12分、「飯田橋駅」から徒歩約17分

## 卒業してから太った理由



現役中大生が作っているサイトに、茗荷谷キャンパスと後楽園キャンパスの間に多摩キャンパスがすっぽり入ると載っていた。ナビタイムによると徒歩移動で1.7km22分。一直線の道路の整備された歩道を歩くわけだが、還暦を過ぎたオッサンは、突き出た腹をさすりながらゆっくり歩き、しかも途中で休むから、30分近くかかる。

学生時代、多摩動物公園駅からマムシに注意しながら坂を登り、トンネルを抜けて大学に入り、教室には行かず真っ直ぐ4号館サークル棟まで行くのに20分かかった。3号館から第2体育館での体育の授業に行く文学部の学生は、階段を昇ったり降りたりの往復が既に体育だった。そのような4年間を過ごした後、卒業して便利な都会暮らしをすれば太

るのは当然である……と思ったが、理工学部出身のあいつの腹が出ているのはなぜだ。（な）



## 多摩キャンパスと都心キャンパスの比較

「中大生による中大生のためのメディア」Chu-Pick!より転載  
<https://chu-pick.jimdofree.com/secrets-of-chuo-university/>

支部長挨拶

葛西 充  
(法・政)



## 高齢者への仲間入り いつまでも元気で

白門58会々員の皆様、お元気にお過ごしのこととお喜び申し上げます。最近ではコロナやインフルエンザの話題もあまり聞かなくなり、かつての日常が戻って参りました。58会が所属している学会年次支部協議会も以前のように対面で「全体会議」や「懇親会」を開くようになり、そこに参加するとお元気で聡明な80代90代の先輩方とお会いすることができます。参加した私は、自分も年を重ねてこうなりたいというお手本を目の当たりにし、わが中央大学のすばらしさを再認識しました。

4月以降58会のすべての方が高齢者の仲間入りをする事となります。とはいえ、ここがスタートで先はまだ長く、皆いつまでも元気で聡明でいて欲しい。そのためにも58会の活動を一生懸命継続していきたい。そう考えています。

なお2025年度の総会は7月に予定をしております。ぜひ懇親会も含めて盛会にしたいと思っております。引き続き白門58会を、どうぞよろしくお祈りいたします。

投稿募集中

「前期高齢者」  
の過ごし方

投稿はこちらから。



ブログ更新中

58会と中大情報はFacebookで



維持会費納入のお願い

白門58会は入会金・会費無料で運営しています。会の運営費は、会員の任意の維持費と会報の広告、学会本部からの支援金などによって賄っています。維持費は会報発送費のほか、白門支援金など学会や大学への寄付に充てています。ご協力をお願いします。

今年度は白門飛躍募金等に寄付をしています。

**維持会費は 1,000 円以上**  
**協賛広告は 30,000 円以上**  
…いずれも、いくらでも結構です。

維持会費のご協力をいただいた方には、金額にかかわらず学会グッズを謹呈します。同封の振り込み用紙をご利用ください。

振込先

ゆうちょ銀行(武蔵府  
中郵便局)  
00180-5-433209  
白門58会(ハクモン  
ゴハチカイ)



編集  
後記

1浪の私は、昨年65歳になりました。高校の同級生達からは“ようこそ前期高齢者の世界へ”とのコメントを多々頂きました。いつまで生きていられるかも分からないので年金も65歳から頂くことにしました。世間的には高齢者ですが、まだ何とか動けるので58会での活動は続けようと思っています。58会会員各位、イベント参加や会報投稿でご協力宜しくお願いします。(会計)

全国有名書店、Amazon等  
インターネット書店で発売中



まんが・イラストでみる  
江戸の暮らし  
衣・食・住

「ポケット倶楽部」編集室  
まんが・イラスト 桐丸ゆい

定価 1,000円 (+税)

太平の世ともいわれた江戸時代、人々はどんな暮らしをしていたのでしょうか？ 江戸時代の住宅や衣服、食についてのコラムやまんが、イラストが満載。衣・食・住、そして暮らしそのものに焦点を当て、江戸時代をひも解いていきます。

株式会社ノラ・コミュニケーションズ  
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-14-6 アライビル 7F  
TEL 03-3204-9401 FAX 03-3204-9402

諏訪書房  
<https://noracomico.jp/>